

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議 アジェンダ 21
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3
Tel 06-6863-8792 Fax 06-6863-8734

この号のハイライト

P. 1 環境学習 / P. 2 上野坂ビオトープ / P. 3 いもっ子倶楽部 / P. 4 竹炭プロジェクト外、機密書類リサイクル / P. 5 天竺川イベント / P. 6 親子でワクワク / P. 7 環境政策室 / P. 8 アジェンダ 行動提案概要版

2006年(平成18年)6月号 NO. 15

(通巻第33号)

環境学習の多様な取り組みが進んでいます

これまでも環境出前学習の取り組みを進めてきましたが、より積極的な対応ができるように態勢を整え、「環境学習のお手伝いをします」の案内もつくりました。とくに子どもたちへの出前学習を強く考慮していますが、どのような出前学習を行っているか、最近の事例などを紹介します。

自然部会は野外観察会など

自然部会のスローガンである「自然に親しみ学ぶ」

はそのまま学校に持ちこめば総合学習の表題にもなる

ように、自然部会の活動は環境の出前学習としても大きな比重を占め、自然工作や野遊びの指導、自然を題材にした紙芝居などのいろいろなメニューも用意しています。

また自然観察を例にあげても、植物・昆虫・野鳥・水生生物・地層・星など不思議を実感するテーマがいっぱいです。

これまで毎月行っている「自然ふしぎ発見クラブ」では“小さな春をさがそう”(3月)“島熊山と若竹観察”(4月)“草花遊びとしおりづくり”(5月)などのテーマで継続して実施しており、好評を得ています。

昨年1年間の出前学習では、小中学校への出前が延べ10回、それらの活動の結果が、東豊中の「どんぐり山を守り育てる会」との提携などにも発展し、さらに市民環境展での学校からの発表へと結びついています。

花と緑のネットワークでは

花と緑のネットワークでは、学校給食の調理くずや

食べ残しを堆肥にしてきた経過から、「食の循環」をスローガンに野菜作りなどの体験学習を行ってきました。

昨年の活動を振り返ると、とよっぴーの製造現場では、見学に来た小学生に直接堆肥に手を突っ込んで温かいのを体験してもらったりして、堆肥の原料から熟成する過程を説明。また、とよっぴー農園では大豆やジャガイモの植え付けから収穫までを体験してもらうことで、原田小学校2年生や子育て支援センターの親子を受け入れました。

さらに出前学習として東豊台小学校4年生に堆肥づくりの現物を持って話をしに行き、左の感想文のように5年生全員からすてきな感想をもらうなど教育現場との交流も活発になってきています。

豊中産の米を給食に提供することにも道を開くお手伝いができ、学校での食育にも積極的な役割を果たしつつあります。

「親子でわくわくエコ体験」生活部会

阪急電車との共催で行った学習会については、6ページに詳細な報告があります。(奥野)

花と緑のネットワークのみなさんへ.....
今日のかんたんの話がとてもわくわくわたり
と、私は自然かんたんが大好きでとてもおもしろ
かったです。けいめいねたこととたんさんあ、てくて
もいっ勉強になつたと思います。紙しばいも
とてもおもしろくて、わかりやすくて、すこぶおもしろ
です。ふみまき部会の栄養分にしてリサイクル研
究のかまきくおもしろそうでした。その栄養分のほか
わくわくおもしろいので不思議でした。それに、
お米のことはよく知っているのにそれでも、新
知りなことからたくさんありました。
みなさん、いろんなことを教えてくれてありがとうございました。
豊中市立東豊台小学校 4年生児童

環境学習のメニュー 紙芝居から野外活動、講義など

環境学習のリストでは、大人から中学生・小学生・就学前の子どもと親などいろいろな集まりを考え、学習形態も体験型から小グループのワークショップ、あるいは野外体験、もちろん講義形式も含め多様な方式と内容を用意しました。小さな子ども向けには創作紙芝居「にんじんくん大変身」も好評です。絵本の読み聞かせなどもあります。資料はアジェンダ21事務局にお問い合わせください。Tel: 6863-8792

上野坂2丁目 自然の再生を願い 第4公園ビオトープ

豊中はかつて、緑の田園都市でした、昭和30年代、上野や島熊山は狐や狸、野兔といった動物が生息し、サギやオシドリ・カイツブリ・カワセミ、水鳥の姿を身近に見ることができました。初夏には蛸が乱舞し、真夏でもウグイスが歌っていました。食べられる木の実や野草は、上級生から年少の子どもたちへと伝えられました。魚を捕ったり、トンボや蝶を追っかけ、四季の花を摘みました。上野坂辺りは溜池や湿地が点在していました。

時は流れ平成になると、少路南地区の風景は激変しました。そして上野坂辺りに残る唯一の緑地が、「宅地造成」されることになりました。自然部会では「溜池や雑木林」の現況保全を願い、独自に生物調査をしました。地元の皆様や行政とも話し合いの機会を得ましたが、民有地ということで「部分的

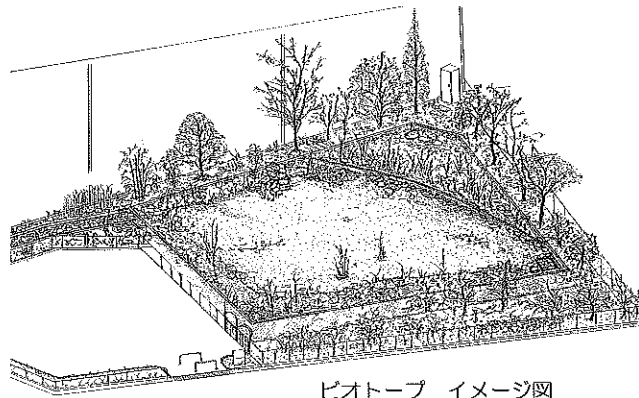
な保存」も叶いませんでした。最終的には関係者のご尽力により、「180㎡の敷地」が確保されました。

少年の頃遊んだ、あの里山、森や池、多種多様な生物は再び戻りません。豊中に生まれ育った私にとって「豊中の自然環境」はもはや追憶の彼方。豊かな自然環境が、人々にもたらす恵みや安堵感は都市化と共に忘れ去られました。

この「第4公園」はすべてが人工で、もとの自然を継承する物はありません。皆様と共に試行錯誤しながら、時間をかけて、「生物の小さな生育環境」ビオトープの手作り

をゼロから始めています。何時の日か扉を開け自由に見学して頂ける日が来ることを願っております。

(藪本圭一)



ビオトープ イメージ図

かわいい池のある公園が上野坂に誕生 上野丘自治会 小林裕子

4月末、ビオトープをもつ新しい公園（第4公園）が上野坂2丁目に誕生し、住民の方々に披露されました。池で釣りをまねる子、挿木を抜いた子、水にはまった子、大事に育てようとした野草を踏んづけてしまった大人。私たち上野丘自治会は、自然部会の方々と協力し“池のある公園”を育てようとしています。

開発前は、池や畑・竹林に希少生物が生息していたそうです。失われたものも多くありますが、皆様の善意とともに少しずつ“自然”の再現を試みたいと思います。

「次はいつ入れるの?」と、目を輝かせた子ども達にも自然観察会を開き、応えていきたいと思います。

自然学習講座 竹林の現状と里山再生 自然部会

自然部会は、2005年度に3回の自然学習講座を開催しました。そのうち、第2回について報告します。

第2回自然学習講座は、2006年1月21日(土)に中央公民館にて、京都大学大学院地球環境学助教授の柴田昌三先生に「竹林の現状と里山再生」というテー



マで講演いただきました。主な内容は、竹の分布・分類・特徴といった基本的な話から、竹と日本人の関わりについてや、竹林整備と竹の活用についてです。

自然部会では、島熊山などで繁茂した竹の整理を行っているため、竹林整備や整備後の竹の有効活用について関心があります。これについて、柴田先生は雑木林などに竹が侵入してきた「拡大竹林」や「木竹混交林」では、樹木や木の実の保護を考えながら、根気よく伐採していく必要性を示されました。また、伐採した竹については、過去に企業が実用化した際に竹の供給が追いつかなくなった例を挙げ、身近なところでの利用を勧められました。

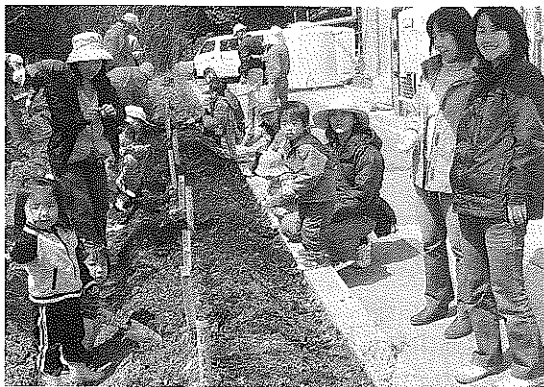
参加者からは、次回は1日コースで講演いただければという感想が寄せられるなど、非常に内容のある講演で、これからの自然学習講座の開催にあたって、参考にしたいと思います。(廣田学)

とよっぴーいもっ子倶楽部 花と緑のネットワークとよなか

4月6日(木)豊中市緑と食品のリサイクルプラザ(原田中)において、とよっぴーいもっ子倶楽部のスタートです。

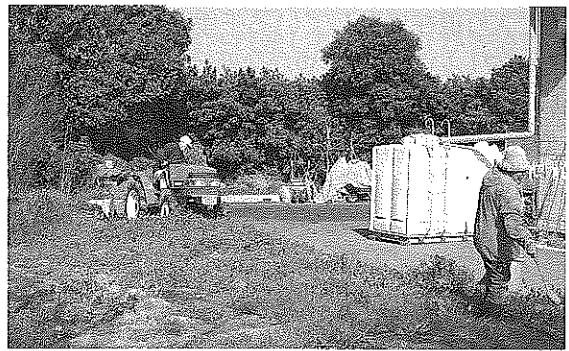
「いもっ子倶楽部」は小さな子ども達にジャガイモを植えてもらい、その収穫までを体験してもらおうという企画です。「調理くずや食べ残しからできたとよっぴーが、堆肥としてまた食べ物の成長に役立つ」という「食の循環」を直接知ってもらう良い機会になります。市営苗圃内の一面を環境教育のために一時期借用させてもらったので、3月末にトラクターを持ち込み、石ころだらけの土を、とよっぴー農園主の柳沢さんがトラクターの歯車をガチャガチャいわせながら、何度か耕運し、畝を作り、やっと畑らしく仕上がったのです。

当日は、花と緑のネットワークのメンバーがとよっ



ぴーをすき込んだ畑の畝に筋をつけ、種芋を準備する中、リサイクルプラザに子ども達が集まってきました。子ども達とは今日を含めて3回の作業で、初回の今日は種芋の植え付けです。6才までの子ども達11人とその保護者8人、合わせて19人が参加されました。

まず、リサイクルプラザの職員から施設の説明をもらい、熟成中のとよっぴーに触ってもらおうと、その温かいことにみんなびっくり! 湯気まで立っているんですよ。熟成槽では最高70~80度に達すること。約3カ月かけて熟成が進みとよっぴーが完成します。そして、完成後は学校や農家、市民の団体や



個人の方が植物を育てるために利用されているのです。

次に畑に移動して、柳沢さんからこれからの作業の説明を受けます。「ジャガイモはその起源はペルーともチリともいわれていますが、今では全世界に広まり、各地でなくてはならない大切な食料になっています」という豆知識や植え方のコツにみんな真剣に聞き入っていました。そして畑にたてる名札作り。今日は2~4才の子ども達为中心で、まだ名前は書けないけれど、お母さんに名前をかいてもらったところへかわいい絵を思い思いに描きました。

名札ができれば、いよいよ植え付けです。種芋をそれぞれにへこみ(芽)があるように5個に切り分けたものを、軽く穴を掘ってその中へ置いていきます。これはどちらが上向きなっても構わないので、子ども達がかわいいスコップで掘った穴に、「それ!」と投げ込んでいきます。ちょっとずれたりするけれど、お母さんがうまい具合に直してあげて、土をかければ植え付け完了です。子ども一人につき6個の種芋を植え、そこに自分の名札をたてました。自分で植えたジャガイモが夏には自分で収穫することができます。ちっちゃな手でスコップを握り、一所懸命に植えたジャガイモです。たくさん実をつけてくれますように。

次回の作業は5月11日(木)で、草抜きをする予定です。ジャガイモの成長の様子はアジェンダ21のホームページで随時掲載していきますので、皆さん是非ご覧になって下さいね。(村瀬令子)

「都市部における農と食育ワークショップ事業」を展開します

花と緑のネットワークは、学校給食の残渣と剪定枝からできた堆肥「とよっぴー」を活用した循環型社会推進活動を行っています。

2006年度のJTたばこ産業のNPO青少年助成事業に応募したところ、全国128件の中から34件に入り、採択されました。『都市部における農と食育ワークショップ事業』というタイトルで、「市内の小中高生と教育関係者が一緒に野菜の植え付けや除草、収

穫などの一連の農作業を体験しその感想を発表する」というものです。

今年は、この助成支援を受けて、食育フォーラムの開催や『とよっぴーキッズ倶楽部』の募集など、さらに、パワーアップしていきたいと思います。子ども達と一緒に大地を耕しながら、心も耕していく感動のある事業を“乞うご期待”。(高島邦子)

竹炭プロジェクト 18年度の活動に向けて

5月に入り現在活動している千里中央公園の朝は、とても清々しい空気と鮮やかな新緑で目の保養には大変いい季節です。犬を連れた人、ウォーキングをする人、何かを観察する人それぞれ思い思いに園内を歩いています。

ゴールデンウィーク中は公園では唯一の遊具ローラー滑り台が大人気で長蛇の列となり大人も子どもも大喜びでガーガーと終日鳴り響いていました。

自分も時々、われわれが間伐を行っている林内を歩いてみますと、まだまだ竹

の切り残しがあったり、場所によっては切り過ぎた所も目につきます。歩きにくかったり、大量に不法投棄された大型ごみの上に落ち葉が積もり危険な所も見受けられます。やらなければならない仕事が沢山あって、いつしか散策気分は薄れて、整備や次の対策に頭が向いている始末です。

ここに生育している竹はモウソウチクです。江戸時代に中国から薩摩藩に渡来して次第に日本各地に広がりました。肉厚で建築補助材料や竹炭焼きなどには最適です。そんな竹を間伐し続けて間もなく丸4年になります。

われわれは樹木も竹も大切に共生を考えながら竹の間伐を行っております。荒れて薄暗かった竹林が

明るく拓けて行く様子を見るにつけ疲れも吹き飛び、またやる気が起こってきます。

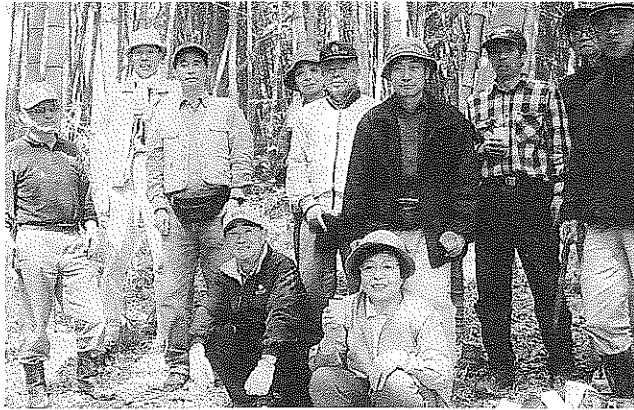
そんな中で4月18～19日に今年初めての竹炭焼きを実施しました。竹炭焼きは活動2本柱のうちの1つです。祈りが通じたのか結果は2窯ともすばらしい出来でした。幸先が良いと皆で喜び合い楽しみながらの健康的な野外活動を楽しんでいます。

ところで、去る4月6日には総会を開催しましたが、今後の方針についていろいろ話し合いを行いました。

主たる3項目について述べます。

- ①竹切り一辺倒から景観に配慮した間伐、整備に切りかえて行く。
- ②新たに安場池周辺の間伐、公園内の土留め工事や整備を行う。
- ③出前教室への対応として竹切り、竹炭焼きだけではなく公園全体の諸調査（植物、野鳥、昆虫など）や学習を行う。

18年度途中からは振り出しに戻って、竹林の全体像を見据えながら樹木の保全、育成を目的に南半分は木々を主体とした雑木林に、北半分を竹林として整備して行きたいと考えております。（三宅史郎）



機密書類リサイクルの社会システム実験

産業部会

機密書類のリサイクルシステム作りを検討するために立ち上げた機密書類リサイクルプロジェクトで社会実験を行いました。

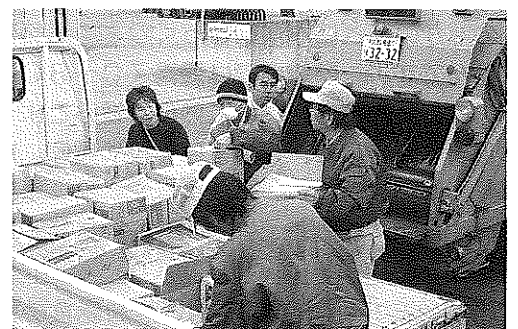
実験は3回、少しずつちがったやり方で取り組みました。市内の事業所や病院から出された機密書類をトラックや市のごみ収集車で製紙会社に持ち込み、溶解処理をしていただく方法です。福山製紙(株)に書類の持込みを快く受け入れていただくことにより実験が成立しました。

運搬のトラックは菱光運輸(株)にご協力をいただきました。そして、いろいろな事業所の方々や豊中市減量推進課、クリーンランドなどの協力を得て、なんとか無事に実験を終了し、その結果さまざまな問題点も把握することができました。

また、各事業所では最重要機密書類とまではいかないが一般の古紙回収には出しにくい、企業の情報や個人情

報が入った機密書類は多くあり、その処理に困っておられるということもわかりました。つまり今後

は必要とされる取り組みではあるようですが、事業として成り立たせることの難しさも浮き彫りになりました。今後どのような取り組み方ができるのかはこれからゆっくりと検討する必要がありますが、いくつかの事業所が一緒になって環境問題に取り組む社会システム作りの第一歩となりました。（茨木かづ子）



天竺川あたりの春をさがしにいこう！

桜とユキヤナギの咲く天竺川で、4月6日身近な春を感じるイベントが開催されました。まちなかを流れる川とその川沿いにこんなに魅力があるということを知ってもらえるイベントになりました。

地域にもこんなに魅力いっぱい場所がある

服部緑地の西側を流れ、緑地帯が両岸に続く天竺川では、服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会という組織が2004年から取り組みを進めています。

今回は、昨年の夏に続き2回目のイベントです。親子を中心とした参加者は、集合場所の緑地小学校からすぐの天竺川沿いを歩きながら絶景スポットを探しました。まず、地域に長年お住まいの方にこのあたりの変遷と自然についてお話を聞きました。歩き出すと、最初は松林ですが、服部緑地へつながる新薔菫（こんにゃく）橋あたりから桜並木と川沿いのユキヤナギが競うように花を咲かせています。服部みどり幼稚園の近くには、昔から根っこが地上に浮いたような松があり、子ども達が大喜びで遊びだしました。参加したおとなの中には自分も子どもの時に同じ松の木で遊んだ経験があるとのことで、昔も今も子どものお気に入りの遊びは変わらないのだなあと感じました。

西願寺橋では水槽に集めてもらった天竺川に棲む生き物をみんなで観察しました。その場所には、高い堤防から天竺川へ降りるタラップが新設されていますが、普段は施錠されており、この日特別に鍵を開けてもらい参加者が降りてみました。いつもは水を近くで感じられない天竺川ですが、川の中に降りてみると、意外に水そのものはきれいだとわかります。しかし、ごみ



がたくさん落ちていたので汚く見えるのです。その後、近くのいつもはフェンスで閉ざされた原っぱで遊びました。外からは見えないのですが、この中にもきれいな桜があり、ちょっとしたお花見ができました。子ども達は虫を探したり、大きな紙に大きな絵を描いたりいろいろな遊びを体験しました。最後にその場で作ったお味噌汁といっしょにお弁当を食べ、イベントは終了しました。

こんなに魅力的で地域にとって貴重な空間を、みんなでより良いものにしていけるよう、継続して取り組みを進めていければいいなと感じました。（井上）

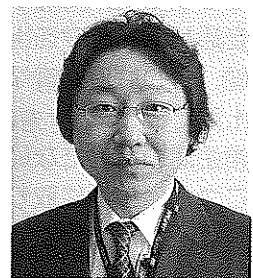
環境とわたし ⑨

私の勤める会社は国道に面していて、近くにコンビニや自販機があり、朝出勤すると空き缶やレジ袋に入ったごみが路上に落ちていることがよくあります。また楠が街路樹として植えられ春には沢山の落ち葉を落とします。

こうした中、会社では慣習で、みんなが当番制で道路に落ちている落ち葉やごみの清掃を行うようにしています。

そして最近思うのは単に自社の前だけを清掃するだけでは無く、より重要なことは清掃することによって周囲の環境に目を配ることができるようになり、環境意識が高まることと思うのです。そして、この当番制にはそのような機会を皆に与える仕組みがで

中井健之さん 企画屋本舗



きあがっているのです。

環境と一言と言っても様々な要素があり、入り口は沢山あることと思います。その中からほんの小さな事柄でも、少しでも多くの方が環境意識に接する機会と仕組みが必要であり、アジェンダはそんな機会を提供できる団体と考えます。そのために私も微力ながら活動を続けたいと思います。

このたびのこの原稿の依頼も、私への機会の提供でありそんな機会をいただいたアジェンダに感謝します。

「親子でわくわく学習会」 阪急電車と共催して 生活部会

駅の仕組みを見学したり環境の紙芝居や地球温暖化の話

阪急電車とアジェンダ21の生活部会が協力し、ボーイスカウトの参加も得て「親子でわくわくエコ体験」



の学習会をもちました。

3月4日朝9時30分、阪急豊中駅前に集まったの

は親子合わせて27人。豊中駅の事務所に入れてもらい、会議室で省エネ電車や切符のリサイクルなど、映像を見ながら話を聞きました。説明とともに「使われた切符はごみ袋につめて何袋くらいになると思いますか」などのクイズをまじえて楽しい進行でした。

ふだんは見ることのできないモニター室にも入りました。モニターではドアに挟まっている人や、ホームに落ちた人がいないかなどを見て、ドアを閉めるタイミングについても信号を送っているようです。こうして事故を防ぐ方法がとられています。

駅の見学がすむと環境情報サロンまで電車で移動。途中レンタサイクルも見学し、これも放置自転車をなくすひとつの手段だと教わりました。

阪急電車の方からパトタッチし、サロンでは省エネや節水の紙芝居を見たり地球温暖化の話を聞きました。電車の模型があり、自転車を漕いで発電して動かし、手回しの発電で走らせたりしました。

身近な企業や団体といっしょに、子どもたちとふれ合う機会をもっと増やしていけたらと思いました。

(瀬島奈保子)

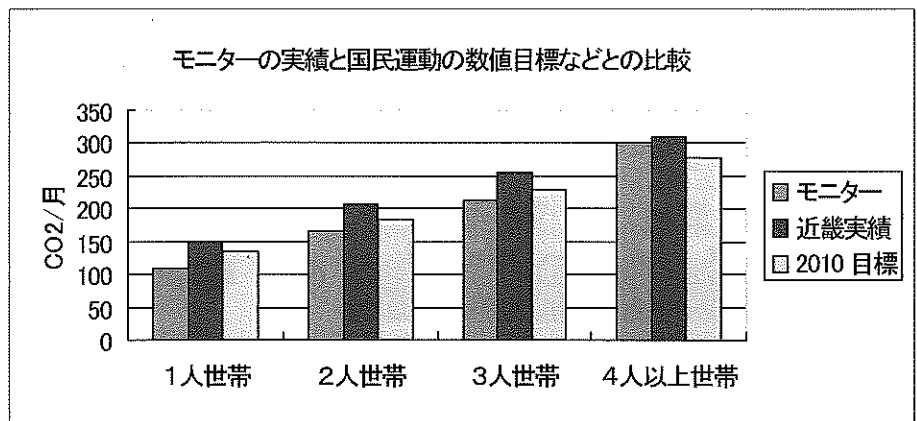
昨年エコライフカレンダー活動のまとめができる

昨年1月から12月までのエコライフカレンダー（豊中市民版環境家計簿）の活動についてのまとめができました。

この1年間も、モニターの間は12%増と着実にふえ、167人になりました。その中で12ヵ月間を通してデータを出してくれた仲間、言わば皆勤賞は152人で91%でした。

日常生活の目立たないところでこつこつと省エネに取り組んでいる仲間が、このように定着して活動していることをほんとうに心強く思っています。

集計をまとめる中で気づいたことのひとつは、昨年のクールビズがニュースになった頃に、この運動を推進していた国民運動（経済産業省・環境省が中心）が出していたデータとの比較です。家庭から出る二酸化炭素の現状と今後の削減目標がありました。私たちの実績は、すべて2002年頃の数値より下回り、目標として10%削減を目安にしていた、2010年の数値に対してもモニター平均では、クリアしているか、ほとんど目標に近い数値になっていました。私たちの



日常の努力は胸を張って宣伝できる数値だと、自信をもつことができました。（上の図を参照）

ただ、心を引き締めなければならないと思ったのは、1人当たりで見た電気・ガス・水道の二酸化炭素排出量の推移です。傾向としては、豊中市の省エネビジョンの報告にあったのと似て、前年に比べると1.7%の増大であり、少しずつですが毎年二酸化炭素排出量の増える傾向は止まっています。各種の電化製品などが増える一方で、省エネ機器はまだ高価で、買い替えはこれからだなあと思いました。（奥野）

上野坂公園の開園

4月29日みどりの日に、上野坂公園と上野坂2丁目第4公園の開園式が開催されました。あいにくの曇り空でしたが、アジガの紫色の花が咲く中、約200人の地元の人が集まり、お披露目イベント「みんなで遊ぼう」で子どもたちが玉入れや縄跳びなどをして、できたての上野坂公園を走りまわりました。



【探してみてください!】上野坂公園には、以前の池のほりにあったシャシヤンボ<小小ん坊>(ツツジ科スノキ属)が移植されています。普通1~2mほどですが、もっと大きなものがあります。一度探してみてください

上野坂公園は、設計段階から自治会の方々と4月にわたってワークショップをし、日常管理や利用方法も考慮しながら知恵を出し合い、市と協働でつくりあげました。基本的な考え方は、大きな遊具を設置せず、子どもたちが自由に走りまわることができる“原っぱ”をイメージした公園。これを基本に必要な施設

の配置を決め、植栽は皆さんが希望される樹種の中から、入手できるかどうか、維持管理、植物の特性などを検討して選定しました。また、自治会と自主管理協定を結び、公園利用のルールを地域で決めたことで、地域の公園としていつまでも愛され、



守り育てていただけたらと考えています。

向かい側の上野坂2丁目第4公園は、通称ビオトープ公園と呼ばれ、自治会、NPO法人とよなか市民環境会議アジエンタ21自然部会、市が協働で樹木や草花を植え、池をつくりました。土地区画整理事業以前にあった池の代わりとして、ヤゴや他の水棲昆虫が生息できるように整備しています。今後も生き物の観察など環境学習の場として活用できるよう、地元とNPO会員の皆さんが、手入れしていきます。

市制施行70周年記念事業都市デザイン賞応募のご案内

《趣旨》うるおいのある美しいまちをつくるため、都市景観条例により、周囲の環境と調和し、個性を活かした建築物や広告物、まちなみや、すぐれた景観づくりの活動などを表彰しています。

《募集・表彰の対象》①豊中市域内にある建築物・工作物・広告物などの物件、まちなみなどで、おおむね5年以内につくられたもの ②豊中市域内で市民や事業者、団体などが行う景観形成にかかる自主的な行為や活動

《応募方法》①物件名と所在地、②活動内容(活動場所)と団体名、①・②とも応募・推薦

理由、応募・推薦者の住所、名前(フリガナ)、電話番号を書き、郵便・FAXまたは市ホームページ上からインターネットにより応募。電話による応募は受け付けません。

《応募受付期間》平成18年(2006年)6月5日から6月30日(必着)

《お問合せ・応募の宛先》

豊中市環境部環境政策室

〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1

Tel(6858)2107/Fax(6842)2802

*インターネットによる応募は、市ホームページをご覧ください。

豊中アジェンダ21「今日から始める暮らしの提案」ができました

「今日から始める暮らしの提案」の合言葉で豊中アジェンダ21の市民行動計画普及版のパンフがカラー印刷でできあがりました。どうぞ知人友人に差し上げてください。

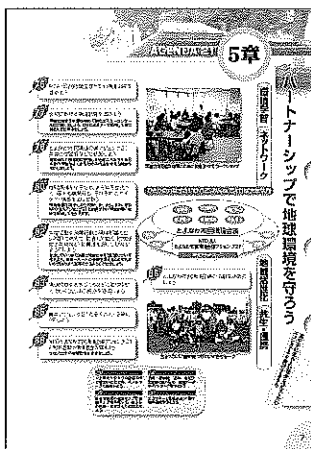
トップには「市民が生活していく中で、少し意識を変えるだけで、地球環境を変えることができます。一人一人の小さな行動が、大きな力になります。できることから始めましょう」と市民への呼びかけが、行政や事業者へ



の指針とともに掲げられています。

A4版で8ページ、5章の構成。①地球温暖化防

止と省資源・循環の暮らし、②自然のゆたかな豊中にしていこう、③環境問題に配慮した事業活動を進めよう、④環境問題に配慮した交通のあり方を考えよう、⑤パートナーシップで地球環境を守ろう。最終ページには「あなたの居場所がここにあります」の呼びかけと豊中アジェンダ21の年譜があります。(奥野)



編集室から

▼食品添加物についての本『食の裏側』を読んだ。日頃朝食はパンに野菜サラダと決めていたが、気づかされたのはサラダにかけるドレッシングが添加物いっぱいということ。今まで原材料の表記をしっかりと読まなかった不明を大いに恥じ入っている。(Z)

▼「島熊山と若竹観察」に参加。コナラの若葉コバノミツバツツジが美しい。春蘭も一株あり蕾をつけている。日当たりの悪い所で赤松が立枯れ。自然に感謝し保護の輪を広げよう。(H)

▼六ヶ所村の再処理工場が、とうとうアクティブ試験を始めてしまった。昆布やニンニク・長芋・りんごなど今も我が家にある当地の食材を私はいつまで買い続けることができるだろう・・・。(Y)

▼上野坂公園の開園式当日は、アジュガがほぼ満開、キチジョウソウも新芽を出してひと安心、シャシャンボも新しい枝を出していました。主催者は、空を眺

めてヤキモキ、手づくりの開園式に雨も少し遠慮したみたいです。(K)

▼子どもが生まれ、何かあるたび困ったり喜んだりしながら毎日を過ごしています。この子が大きくなる頃のことを考える時、その未来が明るいものになるためには、私たちにもできることややらなければならないことがあるだろうと考えさせられます。(J)

▼受験生を持つ親として大学入試説明会へ。予備校の講師を招いて90分の講演。昼食後だし、たぶん眠くなるだろうなぁと思いつつ会場へ。期待は裏切られた。母は決意する！褒めて励まし、おいしいご飯を作らなきゃ。(P)

《広報から》

Z奥野、H岡、Y小村、N三宅、K金元、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp

とよなか市民環境会議とNPOアジェンダ21総会

6月21日(水)午後1時15分から、とよなか市民環境会議総会と、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の総会を豊中市立市民会館で開催します。総会に先立ち、「次世代からの預かり物『持続可能なまち・とよなか』へ向けて」～地域における環境学習について西宮市の協働実践から学ぶ～と題して、NPO法人こども環境活動支援協会の小川雅由さんによる記念講演会を行います。

NPOアジェンダ21の今年度の総会は、前年度事業報告、会計決算報告と新年度事業計画に続き、役員の一部補充など新しい体制での事業の推進について決定します。皆さんお誘いあわせのうえ、ご参加いただきますようお願いいたします。